

住民こそ主人公・住民のための市政を

明日の相模湖

No. 931

2026年10月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com

AIと人類の未来 リスク阻止へ国際協定は急務

ルールがないまま、発展を遂げるAI（人口知能）開発に規制と国際的な協定を求める声が広がっています。国連安保理は9月、AIと安全保障をテーマにした初めての会合を開きました。AIのリスクを放置することは一刻も許されません。

■恩恵と危険の両面

AIは人類に大きな恩恵をもたらす可能性をもちます。しかし同時に資本主義的利潤追求のもと、野放しで、重大な危険をもたらしています。一つは雇用、環境、プライバシーの破壊や軍事利用の危険です。ILO（国際労働機関）の試算では、雇用の約4分の1がAIの影響を受けると見積もられています。

軍事利用では、作戦の立案、攻撃目標の設定などがAIに委ねられ、倫理観なく自動的に攻撃を命じるな

どの事態を招きます。軍事利用の禁止は緊急の課題です。

さらにもう一つのリスクがいま、クローズアップされています。AIが人類の制御を離れて主要インフラや金融システムを破壊したり、生物兵器の使用や想定外の軍事攻撃を行い核戦争を招くなど人類を破滅させる未曾有で、より深刻な危険です。

AI開発会社アンソロピックのCEOのダリオ・アモデイ氏も「開発ペースを減速しなければならない」

AIでできる主なこと

- ◆見分ける：画像認識や音声認識（顔認証や自動字幕など）
- ◆予測する：過去のデータから未来の動向を予想（ルート案内や売上予測など）
- ◆分類する：大量の情報を整理（迷惑メールフィルターなど）
- ◆作り出す：文章、画像、音楽などを新しく生み出す（生成AI）

と提言しました。

アモデイ氏は提言に踏み切った理由として、AIが自分自身の後継システムを設計・開発する「再帰的自己改善」により「今年の夏ごろからAIの進歩が劇的に加速」したこと、さらにAIが「狂信的な集団のように振る舞い」ハッキングを試みた事例が相次いだことをあげています。

■共通の利益と公益

しかし、トランプ米大統領は「AIが世界を支配し、人類を滅ぼすというのはデマだ」とします。AI規制に反対する動きも強く、こうした逆流を克服していくことが重大な課題になっています。

日本共産党の志位和夫議長は8月、「AIのリスクを阻止する国際的な協定を結ぶことは急務」と強調しました。

米中などのAI開発国や国際社会に、最先端AIの開発を一時停止・禁止するよう日本政府として求める必要があります。それは、人類の未来がかかった選択です。

自然観察シリーズ

NO. 599

キノコ



チチタケ（ヘチダケ）（乳茸）

ベニダケ科

チチタケは夏から秋の初めに発生するキノコです。コナラ、クヌギの雑木林の風通しの良い尾根などの地上に生え、中位の大きさ。カサの色はオレンジかかった赤褐色で、ヒダや茎は白いです。ちよつと突つただけで白い乳液が出て垂れます。

栃木方面では特にチチタケが好まれる

傾向があるようで、お盆にチダケうどんやチダケそばを食べる習慣があるそうです。夏頃出るのでキノコ狩りの対象にしてなかったのですが、今年久し振りに見つけたチチタケをナスと共にスライスして、めんつゆで油いためしてソバに載せて、つゆをかけておいしく食べたのです。あとで調べたら、白い乳液は旨味の素なので、洗わないのが良いとのことでした。

チチタケはカサが取れやすいので、ある植物の真つすぐな茎に刺して持ち帰ったので、その名がチダケサシと付きましました。チダケサシは夏の高原などの少し湿った所や、霧の多い所できれいなピンクの花を咲かせています。



足こぎスワン世界大会

。10月4日、相模湖で8回目になる「足こぎスワン世界大会」が開かれました。「世界大会なんて大げさ過ぎるよ」といった陰口も聞かれましたが、1ヶ月以上続いた雨降りがやっと収まった久し振りの日曜日で、キッチンカーも10台近く集まり、湖畔には大勢の人がつめかけていました。

当日は第29回目の「相模湖ダム祭」とも重なり、ダムや交流センターでイベントが開かれていましたが、相模湖公園では遊覧船での湖上学習会(50分)も開かれていました。



100mのタイムを競い合うレース